

2014年度学校教育評価 評価（達成度） A：十分 B：おおむねよい C：不十分

部署	重点目標（計画）	具体的方策（計画）	評価	成果と課題	改善策・向上策
SS大学進学コース	生徒一人ひとりの充実した学校生活と学力の伸長、及び希望進路の実現	① クラス全員が、各々の希望する進路に進む（3年）	B	特編授業等を通して受験勉強の基礎作りはできた。センター試験で実力を発揮しきれない生徒もいた	個々の生徒の学力、適性、個性に対応しつつも、基礎学力の定着を徹底させるべく学習指導をする。
		② 難関国公立大学合格を出す（3年）	C	複数名が旧帝大を受験したが、もう一歩及ばなかった	センター試験対策とともに、難関私大対策、二次学力対策を図る
		③ 「総合的な学習の時間」、「大学見学ツアー」等を通じ、進学意識を高め、進学目標を明確にさせる（2年）	A	個人差はあるが、全体として進学意識がかなり向上している	個人面接等を通じ、個々の生徒の希望、悩みなどを担任が細かく把握し、各教科担任と情報を共有し、より適切に指導する
		④ 個々の学習習慣（家庭学習）を定着させる（1年）	B	課題提出や小テスト、追試験などを習慣化し、定着を図ったが、終始個人差が大きかった	個人面接で生徒にアドバイスしたり、各教科担任と情報交換し、より適切な指導を心がける
		⑤ 個性的な生徒が、互いに認め合い、支え合える学級作りをする（1年）	A	ホームルーム活動や文化祭を通じ、明るくなごやかなクラス作りができた。	休み時間、昼食時間、清掃活動、放課後の生徒の様子を丁寧に観察し、早め早めに対処する
		⑥ OB・OG講演を実施する	C	計画が遅れ、実行できなかった	早めに講演候補者を絞り、皆で検討する。
		⑦ 「寺子屋」を通じ、1～3年生の交流を図りつつ、個々の学力の伸長を目指す	B	学年間の交流とはいかなかったが、自学したい生徒に対して、放課後適切な環境を提供し、質問に答える形でより細かい指導ができた	勉学に積極的に取り組もうというクラス内の雰囲気作りと、個々の希望進路を早期に意識付けする
総合進学コース	学力の充実と社会適応力の育成	キャリア教育により個々の生徒に適応した望ましい職業観・勤労観・職業の知識技能を身に付けさせ、自らが掲げたテーマに対し、調査研究内容をプレゼンテーションし、ディスカッションし、実践的な自己表現能力とコミュニケーション能力を磨く。	A	土曜授業を活用し、生徒たちの主体的な「学び」力を引き出すことが出来た。1年生が昨年度末に訪問した東日本大震災被災地訪問に関しても、2年次も継続してその事後学習を充実して行うことが出来た。3年間をかけた体系的な繋がりのある力を育成していくかが課題。	コースで取り組んだことに対しては、生徒のスキル向上や実学的な効果等を詳細に分析し、有効と認められたものに関しては、単年度の実施にするのではなく継続的に、かつより発展的な方策を常に発想し、計画、実行に繋げていくべきである。
		系統別のカリキュラムでは、授業による知識の定着と、現場での実習による実践力をバランス良く習得し、生徒の進路実現の推進力とする。	B	昨年度の反省を生かし、夏期休業の特別授業を利用して幼児教育の体験ボランティアを行ったことは良かった。	保育だけでなく看護等、体験・実習型のカリキュラムを充実させることで、生徒の実学的な力の養成に結びつけていく。レポート作成など、事後指導も充実させていく。
		2年次の小論文素材研究、3年次の国語表現、小論文模試などを活用し、AO・推薦入試に必要なスキルを早い段階から身につける。	A	各授業の特性を生かし、段階を踏みながら進路に結びつく実力を養成することが出来た。	AO入試、推薦入試本番に向け、早い段階からの意識付けをすることでより深く高度な実力を身につけることが出来る。各教科の分野の特性を生かしながら、幅広くきめ細やかなサポートをすることで、更なる生徒の実力アップにつなげる。
		部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みを促し、現代社会に適応できる人間力の育成に努める。	A	部活動や生徒会活動などの課外活動は年々盛んになり校内の活気に結びついている。文化祭もより一層充実している。さらに多くの生徒が困難や苦勞をいとわず今の自分を乗り越え、さらに自らを成長させる活動に積極的に関わっていくことが重要。	新入生や、現在積極的に課外活動に参加していない生徒にとって魅力的な活動を展開していく。教員が生徒に対し、積極的に課外活動への参加を促していく。
美術工芸コース	希望進路の実現	個別面談を行い、目標実現のため、適切な支援を行う 専門実習の更なる充実と共に、美大入試科目の充実を図る アートカ-（美大予備校）及び進路情報会社との連携強化	A A A	希望実現に向けて社会と美術の関わりについて考えた。 生徒のレベルの向上とともに課題設定した。 講習会、直前講習などに参加し、情報共有できた	進路希望に沿ったより充実した授業展開 進路希望に沿った課題設定で授業展開 積極的に美術系大学進学の講習会等へ参加させる
	生徒の心身の充実	教員間の密接な連絡による適切な生徒相談を行う 美術・工芸を通じた生徒の向上意欲の増進	B A	おおむねできているが密接とまでいかない。 目標に向かって挑戦し取り組むことができた。	情報交換の機会を定期的に設定の必要有か。 生徒の様々な希望に沿った課題を選択することで向上意欲を高める
	生徒作品の充実	過去の美工展を総括し、更なる作品の充実を図る 様々な機会を設け、生徒達により多くの優れた美術・工芸作品に触れさせる	B A	日頃の学習の成果を発表することができた。 夏の美術館見学を初め市美術館の企画展の見学、視聴覚テキストによる学習	対外的なアピールの点(展示内容、告知)で改善の必要有 美術館見学等を増やし、より多くの作品に触れることで生徒の意欲を高める
	生徒募集の活性化	美工作品展を通して更なる意欲の向上を図る 学校ホームページの積極的活用	A B	体験学習など様々な機会に話ができた。 中信美術展出品作、美工展など載せて頂いた。	今後、より一層情報収集していきたい。 授業の様子や、オープンスクールの様子などもアピールする。
	競技力・実績向上	各競技ごとに目標設定をし個々の技術力とチーム力を向上させ達成する。	A	全国大会優勝をはじめ各競技で、最高成績を修めることができた。	各部の努力に期待
スポーツサイエンスコース	学力向上人間形成	高校生として学力向上に努めるコミュニケーション能力・基本的な生活習慣の向上に努める	B	学力向上に各部で努めていた。3年生の引退後の指導が課題	3年生の引退後の具体的な指導方法を考える
	希望進路の実現	競技力向上と学力向上の両立。生徒に適した進路を考え、担任と連携をとりサポート。進路開拓を積極的に	A	新規進路開拓を含め、希望進路の実現ができた。	新規進路開拓に努める
	卒業記念作品展の成功	作業工程表をさらに有効に活用し、作品展がスムーズに実施できるように指導をする。 メニュー指導を徹底し、各々の作品の完成度をさらに向上できるように指導する。	B A	メニュー決定の時期が遅くなってしまったため、作業工程表まで指導が行き届かず、十分な活用ができなかった。 メニュー構成に関して先生方の十分な指導の成果もあり、素晴らしい出来となった。	メニュー決定の最終リミットを設ける。 メニュー決定後にそれぞれの品の味や盛り付けなどを工夫し、一品一品の完成度を向上させるように指導をしていく。
食物科	平成27年度導入の新教材への対応	講習会へ参加し、理解を深める。	A	各種講習会に参加し、また県や調理校との情報交換を密にし十分な理解が得られた。	総合調理実習の実習単位増に関して、具体的にどのように対処するかを今後さらに検討する必要がある。
	自主的な学習の取り組みと他への思いやりを持った行動の実現	基本的な学習習慣を確立させる 他者への思いやりの心を持たせる 将来の進路について意識させ、目標をもたせる 日々の学習、ホームルーム活動に対し自主性をもたせる 自己肯定感の意識を高め、健全な生徒の育成に努める	B A B B A	次年度へ継続 相談室登校の生徒が教室へ戻ることができた。生徒の協力があつた 模試を活用が不十分だった 女子生徒の自立度が強い 保健室の利用度が低い	基本的な学習習慣をさらに確立 特別支援と連携し、相談を進める 大進だけでなく積極的に勧誘する 継続的に手を入れていく 保健室とも連携し、中だるみの防止に努める
2学年	健全な学校生活を送れるよう支援	日々の学習に対する意識の向上 他者への思いやりの意識の向上	B A	将来を見据えて活動できた。検定・模試など、積極性が出てくるともっと良い。 ホームルーム活動・委員会活動・特別活動などを通じて、向上できた。	学力・教養・マナーの定着を図り、『人間力』の育成に努める。 心身の健康に伴い、社会への関心を深め、進路実現に向かう姿勢を養う。
	進路学習への支援	将来の進路について、主体的、研究・計画・実行する力を養う。	A	進路相談・懇談会・進学就職ガイダンス・オープンキャンパスなど行い、3年次につながるような進路指導が出来た。	第一希望への進学・就職実現に向けてサポートする。
	平和学習の充実	沖縄研修旅行の意義沖縄の過去現在未来を学び、恒久平和について考えさせる。 学年集会・課題学習・読書習慣などを総合的に計画・実施し、生徒が主体的に考え、活動する場を設ける。	B A	沖縄戦の悲惨さだけではなく、沖縄の今を通じてこれからの日本の平和にまで目を向けさせようとしたが、最後のまとめ（旅行記）が必ずしも有機的にできなかった。 事前学習に力を入れて積み上げることができた。夏休みの宿題にした「沖縄新聞」も良いものができた。	
3学年	生徒一人一人の進路希望の実現と無事全員が卒業を迎えられるように適切な指導を行う。	仮進級生が早い時期に単位を取得できるよう担任、教科担任の連携を密にする。	A	2名の方向転換はあったが、休学の1名を除く223名の卒業を迎えることができた。 入学者に対してそれぞれの将来も考え3年間その都度、指導・対処してきた。 仮進級生に対しては担任・教科担任の連携を密にでき、早い時期に全員が認定された。	入学者に対しては部活動顧問も精査した上で入学させ、その後の指導にもきちんと責任を持って協力をしてほしい。 仮進級生を出さないように平日の教育活動において対処していく。
		自分に適した進路を早い時点で決定し、進学・就職実現のサポートをする。	B	進学等について指導相談が十分とはいかない場面があった。 指定校推薦生については全員に全国模試を受験させる指導を行った。	進路指導部を中心に模試の指定など早期段階から徹底させていく。 進路指導に関して外部研修にも担任等が積極的に参加し、勉強をしていくべきである。
		進学後・就職後、社会に出た後も通用する学力、人間力をきちんと身につけさせる。	A	学力マップ、語彙読解力検定、漢字・英語・数学検定、小論文、学力模試などにも積極的に参加させた。	体系的・継続的に将来を見据えて計画立て組織的に実施していく必要がある。
		進路決定後、部活動引退後も基本的な生活習慣・学校内外での乱れの無いようにさせる。	B	進路決定後はどうしても緩みがちとなる。問題行動につながることはなかったが、学級・教科担任が締めていこうとしても、なかなか思い通りにはいかない。	部活顧問よりの指導や専門授業などの工夫も必要である。通常の授業についても教授者の目標・姿勢も精査していくべきであろう。

部署	重点目標（計画）	具体的方策（計画）	評価	成果と課題	改善策・向上策
教務部	他部署との連携を図る	文書・選択表等を期日を決め確実に集める	B	間に合ってはいるが、提出は遅い	朝会等を利用して、呼びかける担当を決め、まとめてもらう
		授業変更・自習監督の円滑化	A	授業変更の連絡は早めに提出されるようになってきている 自習課題を当日の朝提出ケースが多いが、授業には間にあっている	出張等の連絡・自習課題の提出は2日前までに
	新課程カリキュラムの完成	学科コース主任会との連携	B	主任会との連携ができ、夏休み前にはほぼ完成することができた さらに検討し、生徒の学力をより高められるようなカリキュラムの完成を目指したい	来年度も検討の時期を早め、教科書決定までには完成したい
		各教科との連携	B	各教科任せになり、綿密な連携はできなかった	主任会も含めた連携をより強化する
	成績PC処理円滑化	入力のPC処理を教科担当が行う・各学年担当が成績処理教科担任と学級担任と連携を強化する	B	システムの改善を行うことでよりスムーズなPC処理が行えるようになったが、システム変更時のエラーチェックがうまく機能せず人の手に頼らざるを得なかった。	新システムを導入しエラーを少なくし、ミスをチェックできるよう改善(平成27年4月より稼働) 担任がクラス生徒の状況をより正確に把握できるような成績処理の流れを構築する。
	憲法人権平和教育	今年度は人権問題に重点を置き、7月11日の映画を見せる「マダラの名もなき看守」	A	今当たり前とと思っている権利も歴史の中で勝ち取られてきたものだ ということに気付いた者が多かった。(特に3年生)	戦後70年を迎え、憲法の今を考えさせたい。(18歳投票も考慮しつつ)
	行事企画の円滑な運営	2ヶ月前連絡の徹底	A	教務主管行事はすべて予定どおり中学校に連絡することができた	校内の行事の連絡は1ヶ月前に確実にこなす
		ミスをなくす	A	予定どおり行なうことができた	行事予定表のチェックをしっかりと行なう
	適正な定員確保のための入試	スポーツ推薦の厳格化	B	数を厳格にできなかったが、1割増でおおむね予定通り	40名以内に抑える。
		入試全体の見直し	B	最終的に数の見通しができない。入試一般にミスが多い。 決められたとおりにやられていない	ミスをなくす。職員全体で統一的に行う、面接試験を厳格に
間違いのない教科書選択	各教科との連携	A	各教科と連携し適切な教科書選択ができた	よりよい教科書選択ができるようにする	
	円滑な教科書販売ができるように	B	各学年と連絡を密にとり、販売できた	各学年との連携強化	
進路指導部	適正な自己認識と進路選択	必要かつ有効な進路情報の提供	B	担任・クラス進路係を通じてできる限り多くの情報を提供できた	クラス進路係をもっと活用させ、各クラスのボックスが山積みにならないようにする
		ガイダンス・カウンセリング(個別面談)による支援	A	面接ガイダンス(2年3月、3年8月)は効果的である。 担任が中心に個別に対応できた	生徒の様子(進路結果など)をもっと連絡を密にすべき
		自己理解のための適性検査・諸検査の実施	B	事後指導が徹底できるとなおよい	積極的に検査を事後指導に利用してもらうよう働きかけたい
		講演会や説明会、調査や見学・体験などの機会の設置	B	学校見学、インターンシップの活用はよいが、コースで温度差がある	個人だけではなくコース企画などで行く必要もあり
	希望進路の実現	就職未決定者〇の実現	B	就職は未決定者〇を実現できた	早め早めの進路意識をHR・集会等で持たせるよう働きかける
		第一志望校への合格	C	推薦一般含め本番で実力が発揮できるさらなる努力が必要	早め早めの動きははじめができるよう今後も努力していきたい
	社会人として必要な資質の育成	基礎学力・一般教養の定着	C	基礎学力の定着は 平日頃から心掛ける必要がある	ドリル実施など日常でコツコツと積み重ねていく必要がある
		基本的生活習慣を身につけさせる	B	日常の中から社会人として必要な要素となることを 進路指導から見た形で指導するがコースで温度差がある	キャリア教育の一環としても重要なので普段から生徒とのやり取りで大事にしたい
		面接指導を通じてのマナーの定着	A	面接ガイダンス(2年3月、3年8月)の活用により非常にやり易かった	間際になって始めるのではなく早い段階で動き始めたい
		健康診断で指摘を受けた者に対する早期の受診勧告	B	受信勧告をしても受診率がなかなか上がらなかった	対応策を校医会で検討する
環境衛生部	生徒職員の心身健康問題の早期発見早期治療	担任と協力して生徒の欠席状況心身の健康状況を把握	B	3日目対応を徹底する	引き続き3日目対応を徹底する
		養護教諭の特性と保健室の機能を生かし、様々な訴えをしっかりと受け止める	A	保健室の機能を生かし、生徒の訴えをよく受け止められた。特別支援とも連携をとれた	カウンセラーとも密に連携する
	日々の保健指導健康相談活動の充実	生徒の様子を紙面で担任に毎日報告、必要に応じ学年とも連携し迅速的確に対応	B	様子を見るですまらず、学年と連携できた	学年・特別支援・カウンセラーと有機的に連携を取って対処する。
		避難訓練等の実施を通して生徒の防災意識の向上	A	整然と避難訓練ができた。避難場所も2か所スムーズだった	時間と場所を考えた避難訓練をする。
	防災対策・防災教育の充実	様々な災害に対応できる環境整備	A	保護者との対話を通して、防災意識を高めるようにした。	自分なりの防災マップを作ることで、防災意識の向上を図る
		教師生徒による全校清掃の徹底	A	HR教室トイレなど清掃チェックマニュアルを作成し、おおむね徹底を図ることができた	一層の徹底が必要
学習環境の整備	校内巡視(清掃委員会)による、校内美化の注意喚起	A	巡視の機会を増やすことができた	巡視を強化し、注意喚起の方法を工夫したい	
生徒会指導部	生徒会活動の充実	生徒だけでなく教職員の意識も向上するよう働きかける	B	昨年度よりも多くの生徒が積極的に関わる、多くの取り組みを実施することができた	全校生徒・教員がより多くの活動に参加できるように、働きかけや提案を継続していく
		日常生活における活動や取り組みを数多くするように提案等していく	B	東日本大震災の復興支援やインターアクトなど、学校外に対する活動を充実させる	来年度も引き続き学校外に対する活動の充実を図る
	文化祭の成功	A	自主性や主体性を発揮できる文化祭になるよう助言、生徒が達成感を得られるように	さらに良い文化祭にするために、様々な助言等を実施していく	
	課外活動の充実	A	インターハイ優勝(柔道)、国体優勝(空手道)、ドラフト指名(野球)等の活躍があった	地味に活躍しているクラブも徐々に成果が出てきているので、この調子で働きかけていく、部室の検討	
生活指導部	学校目標に則った生徒の育成	いじめや差別がない学校作り、早期発見と早期解決	B	いじめは確認されていない。トラブルの早期段階での対応はできている。	トラブルの早期段階での対応
		悩みを抱えている生徒への配慮、相談体制の充実	A	特別支援教育係ならびに養護と連携できている。	特別支援教育係ならびに養護と連携
	生徒の基本的生活習慣の定着	身なりに関する指導の徹底	B	P指導での指導の対象となる生徒が多かった。	P指導での指導を厳格に
		授業への取組み姿勢に関する指導の徹底	B	来年度の大きな課題	大きな課題とする
	現代的で喫緊の課題に対する予防指導の充実	男女交際に関する教育ならびに性教育の充実	A	来年度は専門の部署を設け、さらなる充実を図りたい。	専門の部署を設け、さらなる充実を図りたい。
		情報通信端末類ならびにネットやブログの使い方に関する指導の充実	B	生徒のTwitter利用の実情に合わせた指導に切り替えることを決めた。	生徒のTwitter利用の実情に合わせた指導を継続
	問題行動に対する適切な指導と迅速な対応	学年会との連携による有機的な指導の検討	A	各学年会と必要に応じて連携が取れている。	各学年会と必要に応じて緊密な連絡を
		懸念や指摘(被害や苦情)に対する迅速な対応と周知徹底	A	早期対応ができている。	早期対応に努める
	盗難防止、ならびに交通安全と交通マナーの徹底	校内での盗難の抑止	B	盗難が連続した時期があった。予防と同時に抑止の研究が必要。	予防と同時に抑止についての研究が必要。
		自転車による事故の防止、ならびに公共交通機関を利用する際のマナーアップ	B	交通事故が散見された。	自転車による事故の防止、ならびに公共交通機関を利用する際のマナーアップの強化
生活指導方針の周知・徹底	在校生と保護者への積極的な情報提供	A	継続していきたい。	在校生と保護者への積極的な情報提供の継続	
	受験予定者と保護者への積極的な情報提供	A	継続していきたい。	受験予定者と保護者への積極的な情報提供の継続	
渉外部	教職員会相互の連携、より良い活動を展開する。	①学級・学年PTA活動の充実②地区PTA活動の充実③委員会活動の推進④研修機会の充実*特に②の地区PTA活動を充実させたい。	B	例年通りのPTA活動が展開できた。地区PTAの開催地区が減少している	教職員の協力を仰ぐ。総会 役員会への出席をお願いする。
	私学助成中信地区推進協議会組織で活動	陳情活動の充実。ならびに助成水準の現状維持を図る	A	私立7校と協力し助成維持・増額を達成(南木曾災害のため、木曾合同の陳情はしなかったが増額)	私立8校と協力し助成維持・増額の実現のために活動する
	同窓会組織の充実と活性化	PTA びーたーばんなど他団体との協力を図る。生方の協力を仰ぎ、同窓会役員との連携をはかる。総会を有意義なものとして、参加者を増やす工夫をする。	B	総会では、卒業生にフルートの演奏をお願いした。 活躍した在校生に対し同窓会として表彰した。	教職員の協力を仰ぐ。役員会を強化するとともに、同窓生のつながりを深めていく。
図書視聴覚部	図書館利用活性化	カード化を進める。利用しやすい図書館内の環境整備。広報活動の充実。委員会活動の活性化	B	カード化を進めた。生徒に対し購入希望図書アンケートを行い、より良い図書館の利用を心掛けた。	委員会全体の活動の活性化が必要。引き続き、カード化を進める。広報活動の充実。生徒への啓蒙
	朝読書のサポート	名著、名作、新書、沖縄など平和教育関連の図書を積極的に購入する。	B	沖縄など平和教育関連図書を購入した	生徒が関心を持てる本など、より良い本を購入する。
	視聴覚教材の授業への活用	視聴覚教材を活用して生徒の理解をより深められるように、視聴覚教材の充実と利用を促進する	B	BD(ブルーレイディスク)の要望が増え、視聴覚室や教室でBDを利用できるように設備を整えた	BDを利用できることを含み視聴覚教材の利用を働きかけていく

部署	重点目標（計画）	具体的方策（計画）	評価	成果と課題	改善策・向上策
生徒募集	学校教育方針に見合う定員の確保	本校の様子を中学の先生生徒保護者に理解してもらう。中学校訪問進路講話を行い本校を志望する良い生徒を確保	A	生徒募集に直接かかわれる進路講話ができた。27中学	入試の分析を通して、より本校の内容を的確に伝えていきたい
安全個人情報管理	学校安全の推進	生徒の生活安全、交通安全、災害安全等、地域社会・家庭との連携を図り強化していく一斉メール等も活用する	A	マニュアルの整備ができた。一斉メールの活用ができた	より一層一斉メールを活用していく、保護者と生徒の話し合いを促進し、安全管理に努める
学校振興	学年一斉授業立案	12学年の学年集会形式の授業計画を立て、学年会・多分掌（進路指導・生活指導・教務）との連携で開講を目指す	B	具体的な方策までは回らなかったが、近隣の私立高校の理解の学習を行った。学年集会形式の授業の立案は困難だった	私立高校の理解とともに、対応策を検討し具体化を図る
部活動後援会	効率的な助成	各部の実績や部員数を勘案し、補助金を適正に配分する	A	一律補助の増加、後期は部活動のみの助成。お祝い金・外部指導者へのお礼を支給した	6月に調査、7月支給、後期は9月に調査、10月支給を目指す
	部活動を通しての生活指導の徹底	帰宅時間や部室管理等の意識統一を徹底する	C	部室管理等の具体的な活動はできなかった	課外活動と連携して具体的な行動を図る
	競技力向上のための指導法の研究	各種研修会への参加促進、並びに校内研究会の開催	B	個人的な取り組みに終わった	課外活動と連携して具体的な行動を図る
校務分掌	次年度校務分掌・決め方内容の検討	職員が互いに前向きに仕事ができるよう最善の策を講じる	B	申し合わせ事項の最初からの徹底ができません。シリアルな校務分掌を目指す	校務分掌の決め方・内容の健闘のための校務分掌検討委員会の設置
教育課程	教員のコマ・選択状況などの把握	教員のコマ・選択状況などの把握が確実にできるように	C	各教科に任せた運用となった。	教務との連携のもと、各教科統一した検討を
	新教育課程の作成	生徒の進路実現に向け、より普遍的なカリキュラムを作成	B	3年間新課程の加わりを学科コース主任会と連携して作成	より普遍的なカリキュラムの作成を学科コース主任会と連携して早期に作る
特別支援教育	発達障害・不登校傾向等支援を要する生徒の職員間の情報共有授業参加働きかけ	職員会他での情報共有	B	係会が定期的になった点は良い。	非常勤講師との情報共有の工夫が必要
		職員研修の実施	A	QU研修、新保先生の研修ともに役に立った	QU活用法の研修を重ねたい
		アンケートほかの活用	A	QU・ハイパーQUはとても参考になった	今後は活用法の検討を続ける
		定期考査時等の相談室の活用	B	担任・教務と協力してうまく進んだ	今後も活用していきたい
国語科	学習を総合的に思考力を伸ばし言語感覚を磨き心情を豊かに言語文化の関心深める	漢字検定全校受検	A	全校受検は今年も実施できた。夏と冬に行っている有志による受験も希望者が増えていることは意識が高まっていることの表れだと考える。	進路等にも有効ということ検定取得に関する意識をさらに高めるための啓発を続けていく。授業内でも漢字習得の意識を高め、普段の授業での小テスト、各学期の考査の中で力の定着を図る。
		小論模試などを活用し、入試に必要なスキルを身につける	B	各学年例年通り実施した。リピート添削なども活用しより理解の定着をはかった。	模試そのものだけでなく、事前指導と事後指導をより一層充実させて、生徒の進路実現のための推進力とす
		テキストの音読、読解などを通じ、読む力、書く力、話す力を総合的に学習	A	各授業の中で、進路に結びつく実力を養成出来た。古典に関して習熟度別授業を展開し、生徒其々のレベルに合わせた授業を行うことできめ細やかな指導を行えた。	文学を読み解くという国語の持つ普遍的性格や役割と、コミュニケーション能力のスキルアップに繋がるための今求められる国語としての役割を、バリエーション良く授業の中で展開していく。
地歴公民科	教科指導の充実	授業内の指導を最重要とし、生徒に興味・関心を持たせるような指導の向上	B	教科アンケートを活用しながら、各科・コースに応じた指導力の向上に努めた	生徒第一を主眼に置いた指導向上に努める
		各科目の教育目標を達成、全ての生徒へきめ細やかな教科指導	B	多くの生徒へきめ細やかな教科指導ができた	生徒一人一人に浸透する指導の研究に努める
		一般推薦入試に対応できるよう個々に応じた指導	A	個別指導の徹底もあり、入試での得点力が向上した	生徒の要望に応えられるような指導を継続する
	カリキュラムの検討	各コースのニーズに応じたカリキュラムを検討していく	B	来年度はカリキュラムの変更はなし	生徒のニーズに合わせたカリキュラムの研究を進めていく
数学科	総合的に学習論理的思考能力をつけ物事を順序立て計画的に行動できる	数学検定の実施回数を増やし、生徒の数学への興味関心を高める。受験者の募集を積極的に行うとともに合格へ向けての指導を徹底する。小テストや定期テスト、各種模試を通じ理解度を確認	B	検定の告知の仕方を工夫することで多くの生徒に関心を持ってもらうことができた。	今年度は2回目の実施が参加希望者が少なく実施できなかった。次年度はさらに各授業を通して積極的に参加を働きかけることで、年2回の実施を目指す。
理科	学力の定着と理系進学者への対応	実験教材等を活用科学的基礎力の定着。理系進学者は科学的思考力向上を意識 新課程シラバスの作成	B C	基礎力の定着についてはおおむね良かったが、理系進学者の学力向上が今後の課題 最後まで完成させることができなかった	授業内容の充実だけでなく生徒の自学自習への意識を高めて、演習量を増やす必要がある 来年度は完成させるようにする
外国語科	基礎学力の充実	毎朝の単語テスト実施による単語力の増強	A	毎日英単語・熟語に触れ、追試も実施し、学習の習慣付けを図れた。	小テストの早い採点と返却を図り、単語学習を習慣づける。
		生徒の学力レベルに合った習熟度別講座の展開	A	習熟度別講座展開で、無理のない授業進行を図ることができた。	講座間の情報交換を続け、必要に応じて講座移動も検討する。
	進路実現のサポート	長期休暇の課題提示とアフターフォロー	A	休み明けテストの実施と、事前の課題提示ができた。	引き続き長期休暇の課題提示と学習促進を図る。
		ALTとの連携により、生徒の表現する力を補強	A	ALTの関わりのおかげで、生徒が英会話や英作文に前向きに取り組んだ。	ALTと生徒が関わる場面を多く設定し、生徒の4技能向上を目指す。
美術工芸科	美術を通して生徒1人1人の成長を目指す。	初・二次試験私大入試に向けた問題演習と個人指導	B	問題演習の機会を多く持たせることができたが、基礎の定着に課題があった。	模試を活用し、一人ひとりの志望や学力を掴んだ個別指導をする。
		サテライト教材の活用	A	サテライト授業への希望者の積極的な参加があった。	生徒のニーズに合ったサテライト教材を厳選し、効果的な活用を図る。
		英検の受験促進および二次試験面接指導	A	準会場として毎回英検を実施することができた。	二次試験面接指導を希望者が複数回受けられる体制を整える。
		それぞれの分野において基礎力を身に付ける	A	生徒一人ひとりに合った指導を心掛け徹底した	基礎力の向上を重点として課題に取り組ませる
家庭科	身の回りの衣食住の問題に対処する力の養成	集中力、持続力、体力の向上	A	学年を増すごとに大幅な向上がみられた	生徒をよく見ること、さらなる向上を目指す
		探究心、向上心を持って制作する	A	自らの作品を常に評価し続ける中でより高いレベルを目指せた	インターネット等をもっと活用して自ら探究する姿勢を身に付けさせたい
		幅広い視野を持ち、自己表現力を身に付ける	A	自分を表現する入試課題にも対応できる様、多くの課題取り組んだ	より多くの課題に取り組ませる
		いわゆる衣食住の知識・技術にとどまらず、現代の生活はどうなっているか、今後はどうなっていくべきかという観点で養成したい。	B	扱った分野については生徒の今後の生活に最低限の役割を果たせた。「食」については生徒の受けとめ方が良かった	分野が多岐にわたるため、もう少し時間配分を考えながら多くの分野を扱うように工夫したい
情報科	①情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる ②情報通信ネットワークの適切活用で情報を収集処理表現 ③コミュニケーションを行う能力を養う	情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせ、情報通信ネットワーク上のルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を習得させる。（情報モラル）	A	著作権など、身近な問題について理解が得られた。SNSについてさらなる理解が必要。	SNSについては、社会でも大きな事件発生しているため、具体的な例も増えているので示すことにより理解向上する。携帯端末のあり方について。
		情報とメディアの特徴、情報のデジタル化の仕組み、情報手段の基本的な仕組みなどについて理解させる。（文章処理、表計算、プログラミング）	B	文書処理、表計算ソフトの基本的な技術の習得できている。最低限の技術を習得し、思い通りに使いこなせるようにする。	パソコンが苦手な人であっても基本的な技術を習得するために、文字を打つという技術をしっかりと習得させていく。
		コミュニケーション手段の発達を促進と関連付け理解させる。情報通信ネットワークの特性と情報の受信時に配慮すべき事項を理解させる。（プレゼンテーション）	A	プレゼンを主として、話す力だけでなく、スライドの表現力を向上させる。工夫して飽きさせないスライドを作れるようにする。	発表に適切な内容かどうかをしっかりと判断したり、インターネットの情報を自分たちで理解することをさせていく。
保健体育科	体力向上・コミュニケーション能力育成のために・・・	ホビー活動実施による体力把握	A	100%近く全生徒実施できた	100%の実施を目指す
		バーバースクールで集団ホビーでの体力コミュニケーション能力育成	B	おとなしい生徒や得意な生徒の取り扱いに課題が残った	学年会やクラス担任と連携を取って取り組む、「集団活動」より力を入れる
	心と身体の育成のために・・・	柔道では「心・技・体」の重要性・認識の育成。	A	男女ともに意欲的に取り組めた	「集団行動」により力を入れる
		「心と身体のバランス」の重要性についての育成	A	季節や天候に左右される生徒が見えた	保健室・特別支援などとも連携を取って実施
	青春期の「性」に対する考え方の育成	A	指導部の集会等もあり、生徒の意識は向上している	生活指導と連携して「性教育」の一層の充実	
	現代の「少子高齢化」・「社会保障」等の諸問題に対する考え方の育成	A	新聞等を取り上げより良い授業が展開できた	現代社会の授業とも連動してより良い授業を	